

花岡山・万日山遺跡群第 2 次調査概要

— J R 鹿児島本線外一線連続立体事業に伴う 2 次調査 —



2012.11

熊本県教育委員会

【調査のきっかけ】

J R 鹿兒島線高架化事業が行われることになり、大きな橋脚が建設されることで遺跡が消滅しまうこととなります。そこでいつの時代の遺跡が残っているのかを確かめるために発掘調査を実施しました。

【調査期間】

平成23年10月下旬～平成24年3月上旬

【調査の方法】

大きさ約2m×3m、深さ約1.5mの長方形のトレンチ（細長い穴）を9本と大きさ約4m×7m、深さ約1.5mの長方形のやや大きなトレンチ1本設けて、表面を重機で掘り、その後人力で少しずつ掘り下げて遺構（人が残した生活痕跡）や遺物（人が使用した物）の確認を行いました。

その後、写真や図面で記録を残しました。

【調査の成果】

調査の結果、江戸時代に作られた土を固めた高麗門の土台の一部と柱を支える土台石の根固めの跡、道路跡や溝などを確認しました。

高麗門は、加藤清正が慶長12年（1607）頃に築いた熊本城域の一部であり、城と城下町を堀や川で囲んだ区域の西側の入口にあたります。

細川期には建てかえられていて、櫓門になりましたが、その後も高麗門という地名は残りました。

道路跡は細川藩主の菩提寺である妙解寺跡につながる参道、及び加藤期に使用された道の一部と考えています。

【絵図に見る高麗門周辺】

江戸時代肥後において多くの絵図が残されています。右の絵図は享保17年～宝暦10年頃の高麗門周辺の絵図です。熊本城を中心として西側に堀を造り、土塁を築いた様子が伺えます。

高麗門の西側には多くの寺が存在します。智雄院妙永寺は加藤家由来の寺で、加藤清正が慶長5年（1600年）に没した母・伊都の菩提を弔うために、慶長7年（1602年）に建立した寺です。高麗門を出て、西側には禅定寺が見えます。加藤家家臣並河志摩守の菩提寺として古町から移築され、庄林隼人、三宅角左衛門、南条元宅などのほか細川時代の數家、雲林院家、榎島家、平野家、上野家などの有力家臣団の墓が存在します。

高麗門を出て南西に向かうと花岡山があります。花岡山の東麓には熊本藩主細川家墓所（妙解寺跡）があります。寛永18年（1641）に細川忠利がなくなると、埋葬し墓地を守護するために山麓に寺が設けられます。以後、歴代の細川藩主の菩提寺となり、国指定史跡になっています。高麗門を出て、堀に沿って南に向かう道は、江戸時代には細川家墓所への参道となっていました。

高麗門を出た熊本城からみて南西部には寺が多いのは、熊本城の裏鬼門に当たるからと言われています。



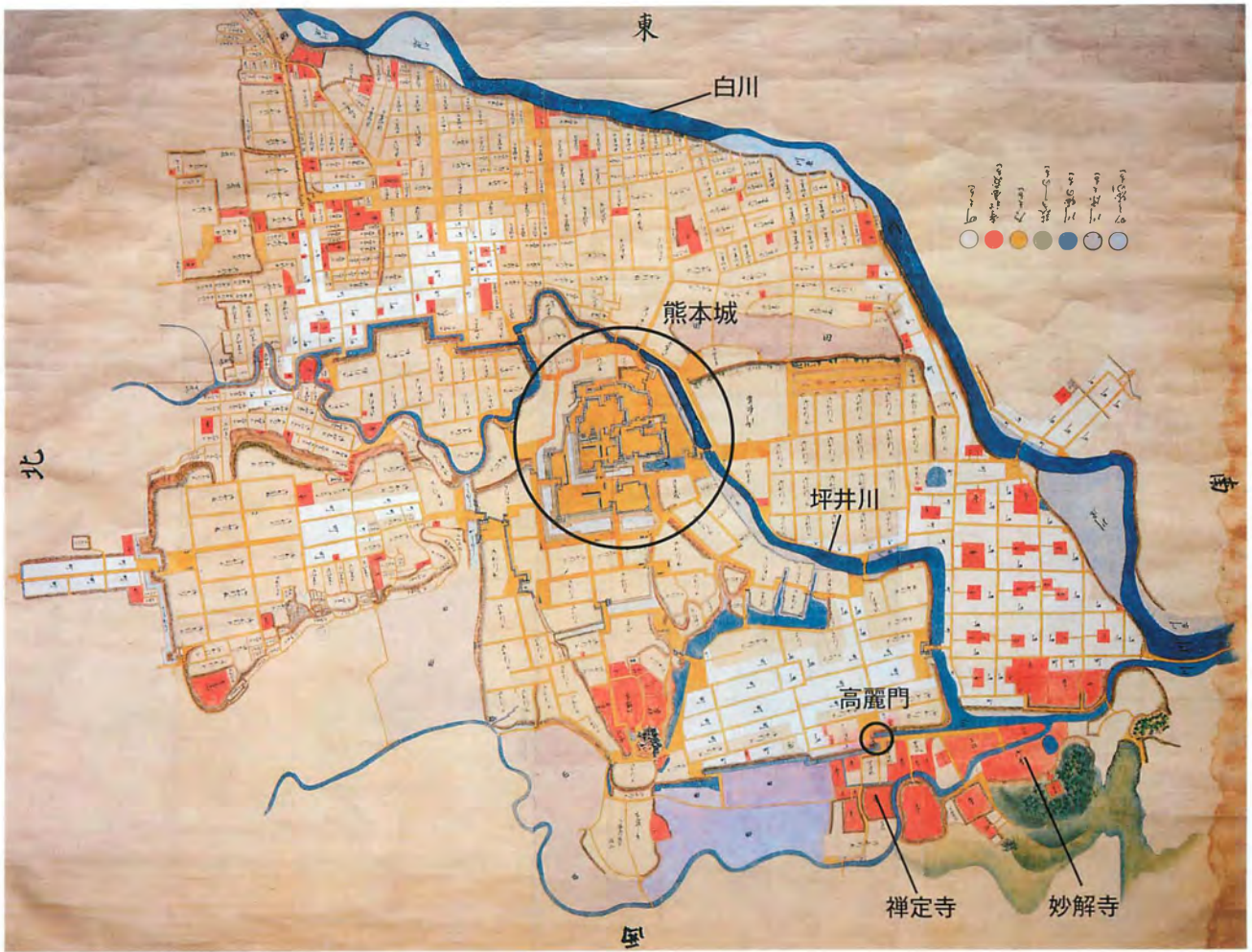
空撮 熊本市街上空（南）より調査区を望む



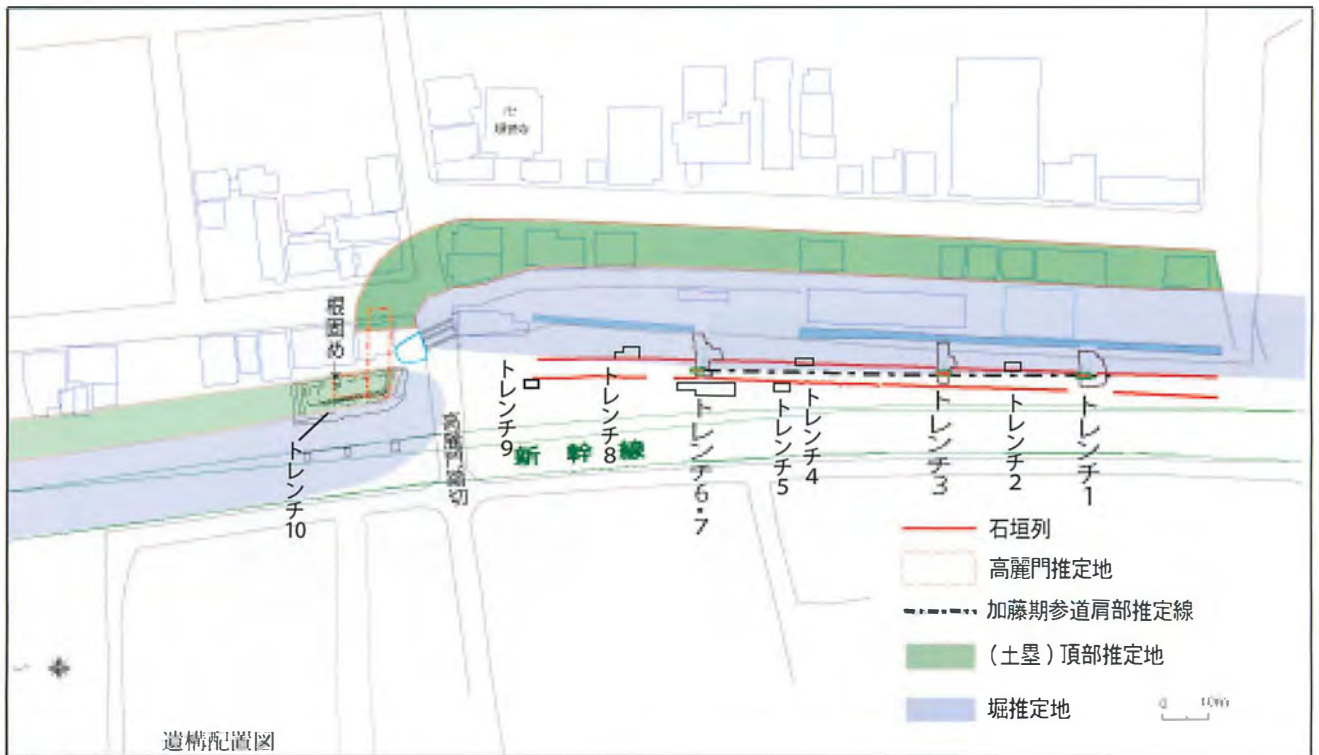
北岡山 高麗門塩屋町絵図（熊本県立図書館蔵）



遺跡周辺地図



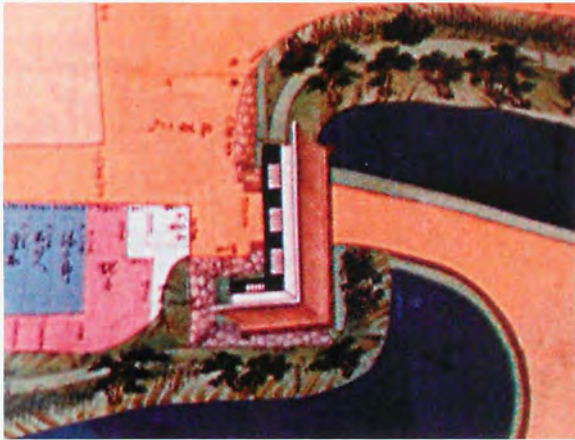
熊本城下絵図（熊本博物館蔵：昭和2年（1927）写、原図は文政2年（1819）以前）



調査区のトレンチ位置と遺構推定図

【高麗門について】

細川期の絵図に見られる高麗門の形はいずれも下図（高麗門土居（高麗門付近）高麗門の絵図）のように櫓門の形をして、石垣の上に櫓が乗っています。これに対して、「熊本屋舗割之下絵図」に見られる加藤時代の高麗門は石垣に挟まれています。この頃の高麗門が本来の本柱と控柱を持つ高麗門の形をしたものだったと思われます。



高麗門の絵図（拡大）



高麗門付近の絵図（熊本県立図書館蔵）
寛永6～8年（1629～31）頃（推定）

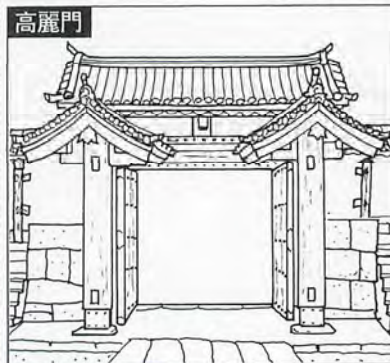


根固め遺構
直径1mの遺構で礎石の下の地盤を固めるためのものです。大きな柱が乗っていたものと思われます。

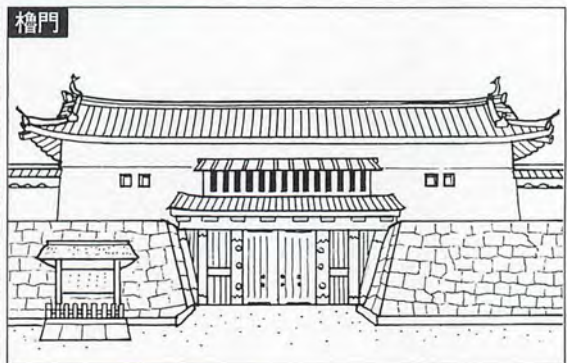


トレンチ10の空中写真

●城門の主な形式



本柱の上に切妻の屋根があり、この屋根と直角方向に、控柱を建てて、小さい切妻の屋根をかける。



石垣と石垣の間に渡櫓をわたし、その下に門をつくる。堂々たる門で柱や扉に装飾の金具をとりつける。（図：文化財探訪クラブ6「城と城下町」石井進 監修 山川出版社 2003より）



東西土層断面
東側で平坦に走る焼土（4層）が西側に向かって下がっている。土塁の肩から堀へ落ちているものと思われる。

【高麗門周辺から出土した遺物】

1 滴水瓦

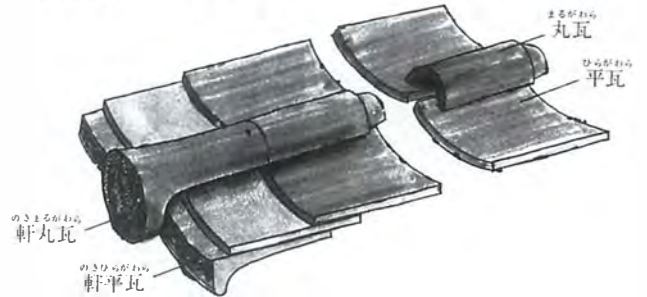
根固め遺構の北西部から数点の滴水瓦が出土しました。滴水瓦は朝鮮半島系の軒平瓦で、中央縦に「慶長四(1599)年八月吉日」の年号(No51,55)が刻まれています。熊本城天主閣、南大手門櫓、西大手門櫓などにもこの滴水瓦が見られます。熊本城内では滴水瓦は限られた建物を飾っていることから、この高麗門が重要視されていたことが伺えます。刻まれた年号は熊本城の築城開始の年代として注目されてきたものです。また「十三年」の年号が残る滴水瓦が出ています。周辺の調査区からは「文政十三年(1830)」の滴水瓦が出土していることから、同じ年代と考えられます。



滴水瓦 (ものと人間の文化史 100「瓦」 森郁夫より)

2 軒平瓦

軒平瓦を飾る文様には唐草文様が多く見られます。唐草文様に桔梗紋(加藤家の家紋: No595)や唐草文様に九曜紋(細川家の家紋: No448)の軒平瓦などが出土しました。



(「法隆寺 世界最古の木造建築」西岡常一・宮上茂隆より)

3 軒丸瓦

日足紋、桐紋、桔梗紋、九曜紋の瓦片が出土しました。日足紋は、朝鮮系の瓦とされています。また、大名の家紋を模した瓦のなかでは、九曜紋が一番多く出土しています。



滴水瓦



日足紋軒丸瓦



軒平瓦



桐紋軒丸瓦

876

桔梗紋軒丸瓦



58

52

九曜紋軒丸瓦



621

723

50

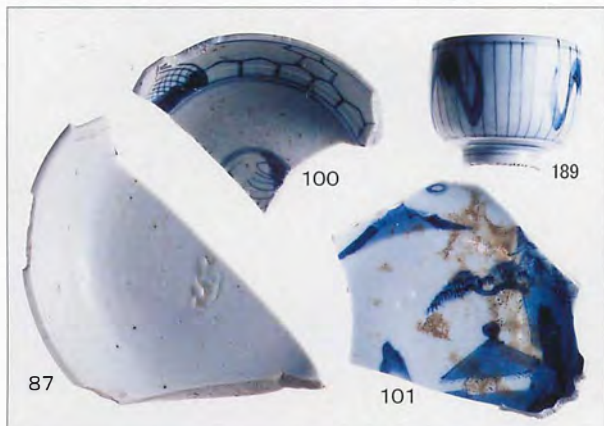
4 その他

高麗門の上層の焼土から陶器、被熱した瓦、瓦職人の刻印銘が入った瓦などが出土しました。陶器は幕末から明治初頭にかけてのものも含まれていました。

高麗門土台横の下層から出土した磁器(87,100,101,189)には、蛇の目凹型高台という高台をもつ皿(18世紀後半)や蝙蝠紋の茶碗(19世紀初頭)などが出土しています。これらの遺物から、19世紀前半に周辺の改築など何らかの土木工事があった可能性が考えられます。

但し、文献などの照合が必要になります。

高麗門土台トレンチ出土磁器(表)



高麗門土台トレンチ出土磁器(裏)



【道路と堀について】

南側の3カ所のトレンチから踏み固められた硬い土を上下層にわたり確認しました。この硬い土の層を道路跡と考えました。この5層が最も古い時期に造られた堀の西側の岸の上部に当たります。トレンチ3では、5層という硬い土が最も古い時期に造られた堀の西側の岸の上部にあたります。さらに硬い土は5層の上にも存在し、3-2層は5層の西岸の法面を整備し、土(4層)を被せた上で排水溝のある道を造成しています。排水溝のある参道は絵図にも描かれています。3-1層は排水溝を埋めて道を拡張しています。この拡張の時期は明確には分かりませんが、参道を築いてからさほど時間が経たないうちに改築されたものと考えられます。

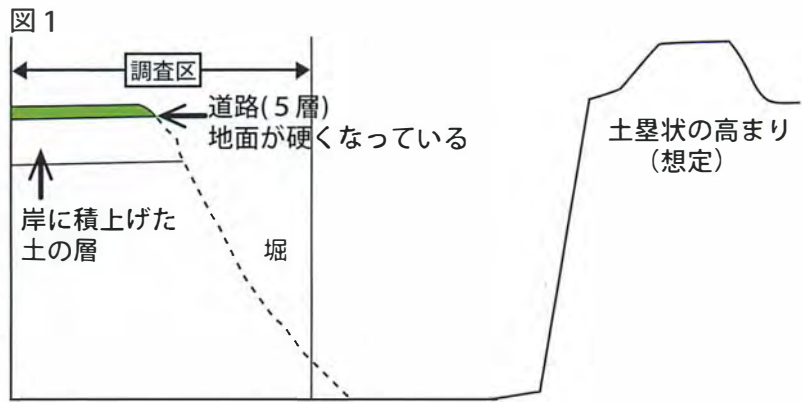
3-1層、3-2層が細川期に造られた菩提寺である妙解寺へつながる道路跡(参道跡)、5層が加藤期に造られた道路跡と考えられます。



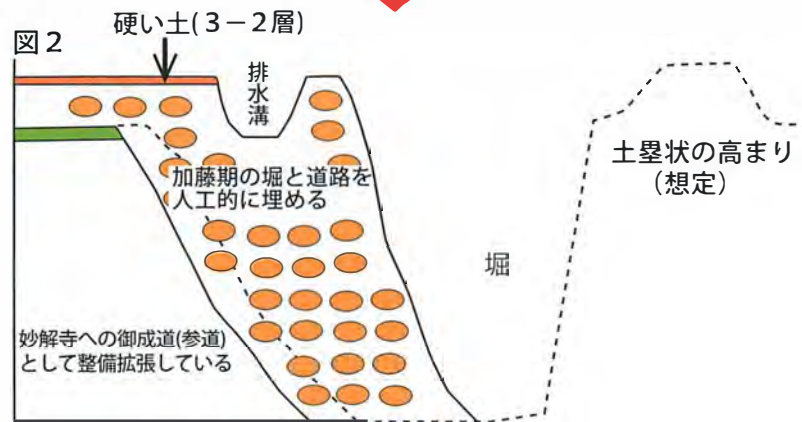
トレンチ03土層断面

参道 (Tr-03 部) 造成イメージ図

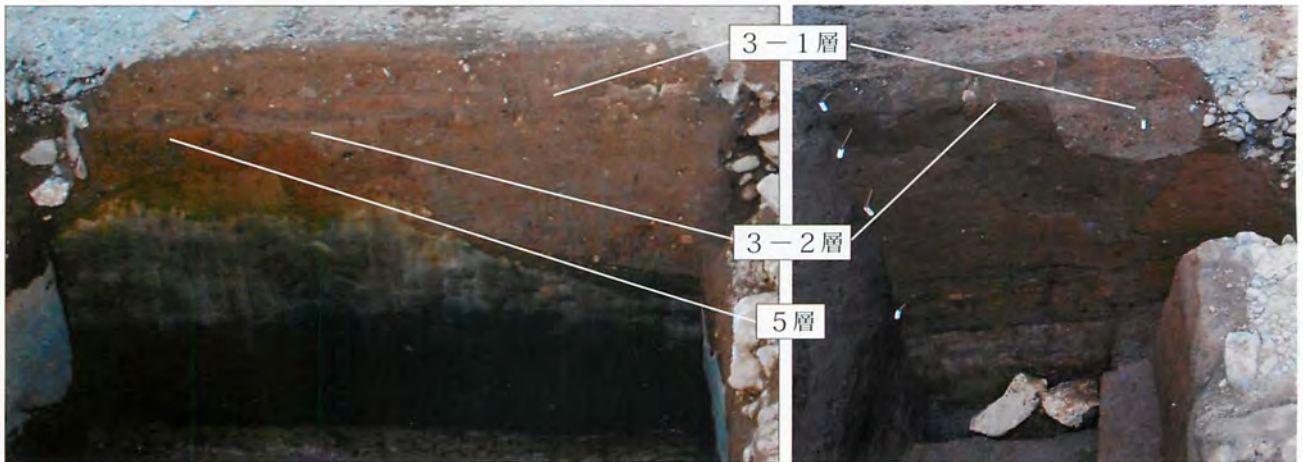
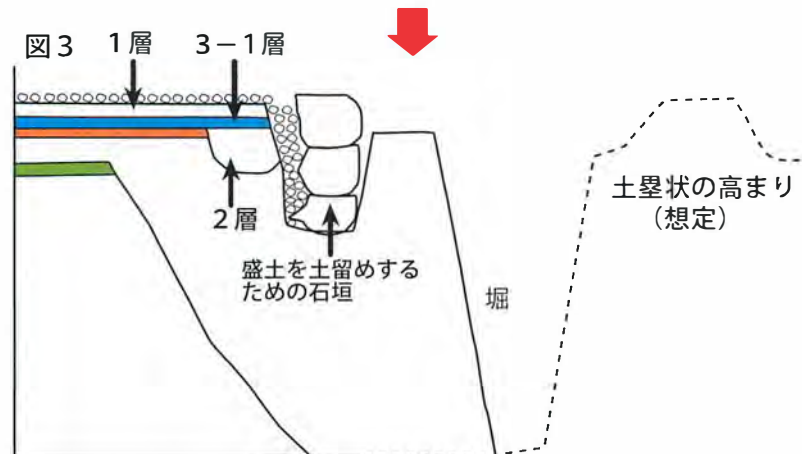
加藤期



細川期



細川期から 明治期



トレンチ0.6・0.7 土層断面

トレンチ0.1 土層断面



古写真：新三丁目橋より下手を見る〔松の木の下の手道が妙解寺に向かう参道〕
 (富重利平氏により明治初期：西南戦争以前に撮影)



※矢印は当時の
 高麗門（櫓門）。
 現存する唯一の
 写真 →

古写真：花岡山から見た城下町「熊本」
 (富重利平氏により明治4年8月～明治10年2月の間に撮影)

出典：富田 紘一 1993「古写真に探る 熊本城と城下町」 肥後古代文化財研究会より

※拡大写真



発行者：熊本県
 所 属：教育庁教育総務局
 文化課
 発行年度：平成24年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 284 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：花岡山・万日山遺跡群第 2 次調査概要

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL： <http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日